

近代日本最初の水準測量標石

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第026号
名称(型式等)	(1)飯沼水準原標石 (2)堀江水準標石
所在地	(1)千葉県銚子市馬場町 293(圓福寺) (2)千葉県浦安市堀江 4-1-5(清瀧神社)
設立(竣工)年	明治5(1872)年

選定理由

飯沼水準原標石と堀江水準標石は、明治5(1872)年、明治政府が国内の河川整備のためにオランダから招いたI・A・リンド技師によって設置されました。水準原標とは、川の水位を測定するための原点となる点のことです。

リンドは利根川から江戸川の水準測量を行い、千葉県銚子市にある飯沼観音(圓福寺)内に飯沼水準原標石を設置し、利根川河口の飯沼水位尺(量水標)の零位を日本水位尺(J.P. Japan Peil)と名付け、水準測量の原点と決めました。

堀江水準標石は、千葉県浦安市堀江の清瀧(せいりゅう)神社の境内に設置されました。飯沼水準原標石とともに設置された日本で最初の水準標石で、江戸川河口の堀江水位尺(量水標)の零位を江戸川水位尺(Y.P. Yedogawa Peil)と名付けました。

リンドの残した水位尺は、現在でも河川の水位を表記するときに使われており、河川工事・管理をする上で重要な役割を果たしています。

堀江水準標石は平成19(2007)年、飯沼水準原標石は平成27(2015)年にそれぞれ土木学会選奨土木遺産に選出されています。

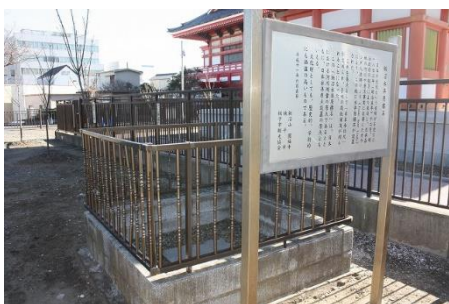


写真1：飯沼水準原標石



写真2：堀江水準標石

参考資料：国土交通省関東地方整備局 江戸川河川事務所

国土交通省関東地方整備局 利根川下流河川事務所